

スピーカー：大阪ガス企画部 IR 部長 福原 康德

大阪ガスの IR 部長の福原です。

本日は、お忙しいところ、当社の 2026 年 3 月期第 3 四半期決算の説明会にご参加いただきありがとうございます。

また、平素は当社事業にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、第 3 四半期決算について、

当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

3 ページをご覧ください。

■ P3 26.3 期 第 3 四半期決算のポイント

- ・ 3 ページは、26 年 3 月期第 3 四半期決算のポイントです。
- ・ 売上高は、前年並みの 1 兆 4,388 億円となりました。
- ・ 経常利益は、海外エネルギー事業における フリーポート液化基地(LNG)や 米国上流事業の好調、国内エネルギー事業における タイムラグ差益の拡大などにより、前年に比べて+376 億円増益の 1,631 億円となりました。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益は、関係会社売却による特別利益等もあり、前年に比べて+495 億円増益の 1,403 億円となりました。

■ P4 26.3 期 第 3 四半期決算の対前年比較(経常利益)

- ・ 4 ページでは、経常利益の前年との差異理由 をセグメント別に分解して、ご説明します。
- ・ 【国内エネルギー事業】は、タイムラグ差益の拡大 や JLC と比較した当社長期契約 LNG の競争力向上などで、+250 億円の増益となりました。
- ・ 【海外エネルギー事業】は、米国フリーポート液化基地(LNG)の増益や、米国上流事業サビン社の増益などで、+162 億円の増益となりました。
- ・ 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、概ね前年並みとなっています。
- ・ 「その他」については、セグメント調整額 及び 営業外損益で▲42 億円の減益となりました。

■ P5 26.3 期 見通し修正について

- ・ 5 ページは通期見通し修正のポイントです。
- ・ 売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、2025 年 10 月 30 日公表の通期見通しを据え置きますが、国内エネルギーセグメント利益 の内訳を 修正しています。
- ・ ガスについて、JLC と比較した当社長期契約 LNG の競争力向上が 見通しを下回ることにより、ガス事業粗利を▲30 億円下方修正、一方で電力は市場取引による利益 が見通しを上回ることから+30 億円上方修正を行いました。
- ・ なお直近の市況を勘案し、第 4 四半期の前提について、原油価格は 1 バレルあたり 70 ドルから 65 ドルに変更、為替レートは、1 ドルあたり 150 円から 155 円に変更します。

■ P6 26.3 期 見通しのポイント

- ・ 6 ページは通期見通しの対前年比較におけるポイントです。
- ・ 売上高は、国内エネルギー事業でのガス販売価格の低下 等により、前年に比べて▲190 億円の減収となる見通しです。
- ・ 経常利益は、電力事業での固定費の増加 などにより、前年に比べて▲36 億円の減益、タイムラグ差損益を除く経常利益では、▲163 億円の減益となる見通しです。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益は 前年に比べて+75 億円の増益となる見通しです。

■ P7 26.3 期 見通しの対前年比較(経常利益)

- ・ 7 ページでは、経常利益の見通しと前年実績との差異理由をセグメント別に分解してご説明します。
- ・ 【国内エネルギー事業】は、姫路天然ガス発電所の運転開始などに伴う固定費の増加などで、▲20 億円の減益、
- ・ 【海外エネルギー事業】は、フリーポート液化基地(LNG) や 米国上流事業の好調などで、+20 億円の増益、
- ・ 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、都市開発事業の好調などにより、+52 億円の増益を見込んでいます。

■ P8 成長投資の実績と見通し

- ・ 8 ページは成長投資と財務健全性を示しています。
- ・ 26 年 3 月期 第 3 四半期累計で、1,580 億円の成長投資を行いました。
- ・ 【国内エネルギー事業】では 発電所など、
【海外エネルギー事業】では 米国上流事業の開発など、
【ライフ&ビジネス ソリューション事業】では 都市開発事業などに対して、主に投資しました。
- ・ 第 3 四半期 期末時点の財務健全性指標は、中期経営計画 2026 で示している水準「自己資本比率 45%以上、D/E 比率 0.8 以下」を確保しています。

以降は説明を割愛いたしますが、

9 ページからは、第 3 四半期実績の前年同期との比較、

15 ページからは、通期見通しの対前回見通し比較

21 ページからは、通期見通しと前年実績との比較

27 ページ以降に、参考情報として、収支感度、タイムラグの状況、B/S における為替換算調整勘定の変動、また IR 参考資料一覧を記載しております。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。